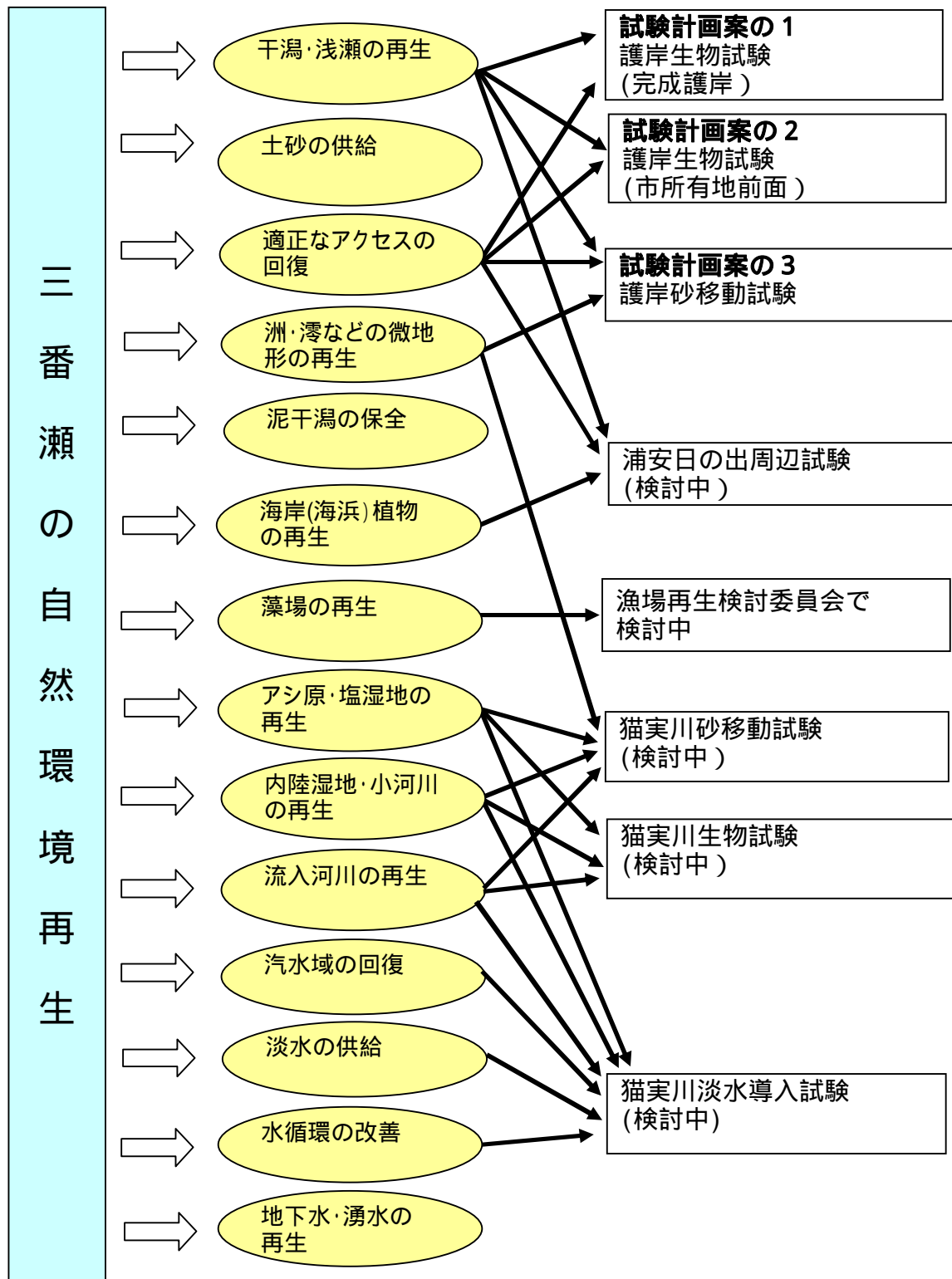


平成20年7月25日  
総合企画部地域づくり推進課

## 三番瀬再生実現化推進事業について

干潟的環境(干出域等)形成に係る試験計画(案)

## 再生の目標と試験案の関係



試験案3 護岸砂移動試験  
 (1) 干潟・浅瀬の再生  
 (2) 洲・湾など干潟の微地形の再生(海側)  
 (3) 適正なアクセスの回復

試験案2 護岸生物試験(市所有地前面)  
 (1) 干潟・浅瀬の再生  
 (2) 適正なアクセスの回復

猫実川生物試験(検討中)  
 (1) 小河川の再生(生物の視点、中流域)  
 (2) アシ原・塩湿地の再生  
 (3) 流入河川の再生



試験案1 護岸生物試験(完成護岸)  
 (1) 干潟・浅瀬の再生  
 (2) 適正なアクセスの回復

猫実川砂移動試験(検討中)  
 (1) 小河川の再生(場の安定の視点)  
 (2) アシ原・塩湿地の再生(場の安定の視点)  
 (3) 洲・湾などの微地形の再生(川側)  
 (4) 流入河川の再生

浦安日の出周辺における試験  
 (1) 干潟・浅瀬の再生(潮だまりの視点)  
 (2) 適正なアクセスの回復  
 (3) 海岸(海浜)植物の再生

猫実川における淡水導入試験(検討中)  
 (1) 汽水域の回復(生物定着の視点)  
 (2) 小河川の再生(生物の視点、上流域)  
 (3) アシ原・塩湿地の再生(場の安定の視点)  
 (4) 流入河川の再生  
 (5) 淡水の供給  
 (6) 水循環の改善

## 試験計画案1 市川塩浜2丁目護岸前面における生物試験(完成護岸前面)

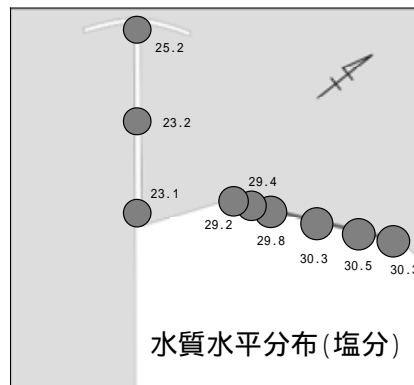
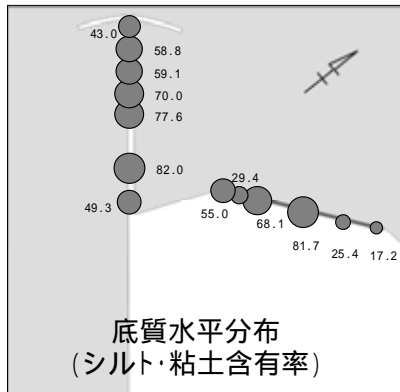
### 1 試験目的

塩浜2丁目護岸の完成護岸前面を利用して、石積み護岸前面での干潟形成の検討のための基礎資料を得る。(生態系を壊さないで生物定着を見る。砂は動かない。塩分濃度が普通、周辺底質が砂質の状況での最適高さ、材料を探す。)

### 2 試験項目

- (1)地盤高、底質別の生物の加入状況及び定着状況
- (2)地盤の安定性

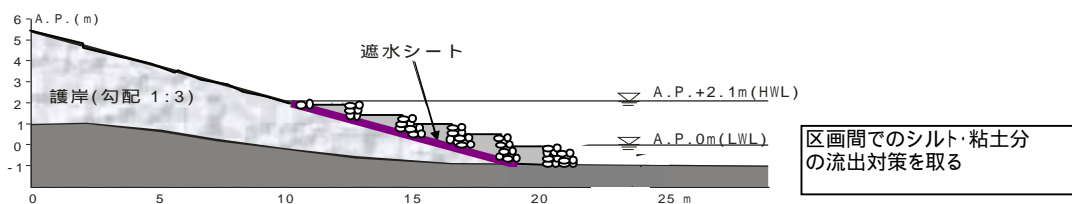
### 3 試験場所

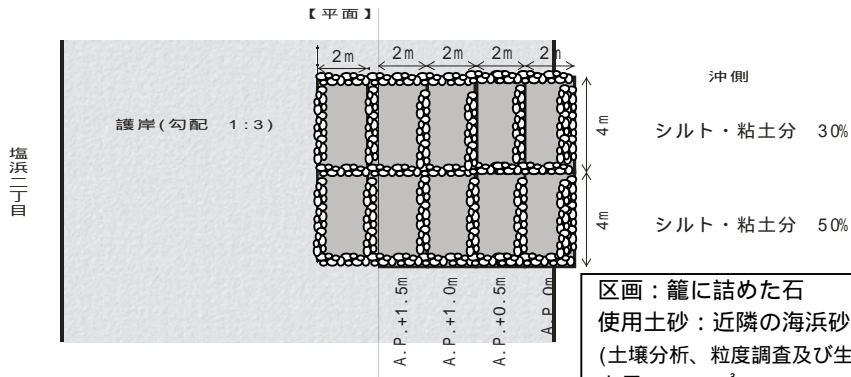


### 4 試験方法

市川塩浜2丁目の完成護岸前面にA.P.0m～A.P.+2.0mまでの5つの地盤高及び2種類(シルト・粘土分30%、50%)の底質の合計10試験区を設置し、地盤高の違い、底質の違いによる生物の加入状況及び定着状況を見る。また、試験区の地盤の安定性についても確認する。試験期間は生物の加入状況や砂の拡散状況をみながら、試験の継続を判断するが、最長で3年間とする。

【断面】





区画：籠に詰めた石  
 使用土砂：近隣の海浜砂又は購入砂を調達  
 (土壌分析、粒度調査及び生物確認調査を実施)  
 土量：30m<sup>3</sup>

### 5 モニタリング計画

調査項目		頻度
底生生物	カニ類等大型底生生物	4季
	マクロベントス	4季
	付着生物	4季
底質	粒度組成、酸化還元電位、強熱減量、含水比、COD、硫化物	4季
水質	水温、塩分、DO、T-N、T-P	4季

### 6 試験でどんなことがわかるのか

(1) 砂は動かない。塩分濃度が普通、周辺底質が砂質の状況で、どんな高さ、どんな底質がどの生物に適しているのかを探す。

### 7 試験結果を生かした目標イメージ

- (1) 干潟・浅瀬の再生
- (2) 適正なアクセスの回復



## 試験計画案2 市川塩浜2丁目護岸前面における生物試験(市川市所有地前面)

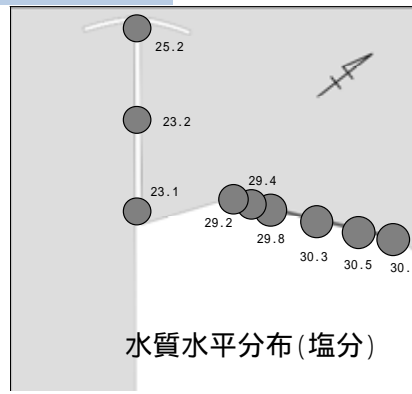
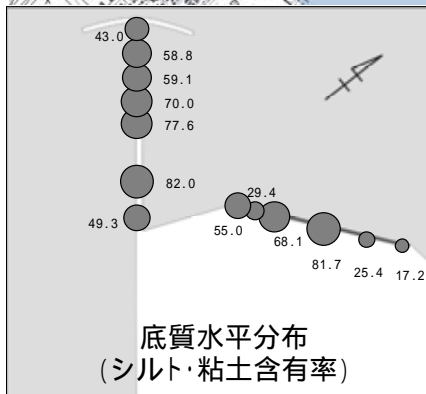
### 1 試験目的

塩浜2丁目護岸の市川市所有地前の直立護岸前面での干潟形成の検討のための基礎資料を得る。(生態系を壊さないで生物定着を見る。砂は動かない、塩分濃度が低め、周辺底質がシルト質の状況での最適高さ、材料を探す。)

### 2 試験項目

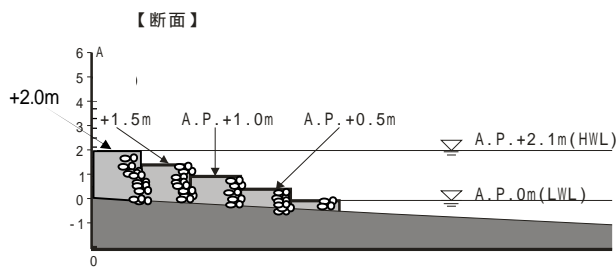
- (1) 地盤高、底質別の生物の加入状況及び定着状況
- (2) 地盤の安定性

### 3 試験場所

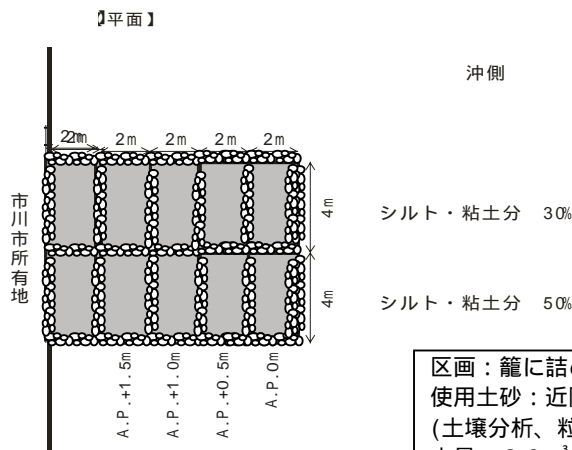


### 4 試験方法

市川塩浜2丁目の市所有地前面の直立護岸前面にA.P.0m ~ A.P. + 2.0mまでの5つの地盤高及び2種類(シルト・粘土分30%、50%)の底質の合計10試験区を設置し、地盤高の違い、底質の違いによる生物の加入状況及び定着状況を確認する。また、試験区の地盤の安定性を確認する。試験期間は生物の加入状況や砂の拡散状況をみながら、試験の継続を判断するが、最長で3年間とする。



区画間でのシルト・粘土分の流出対策、試験区の沈下対策を取る



区画：籠に詰めた石  
 使用土砂：近隣の海浜砂又は購入砂を調達  
 (土壌分析、粒度調査及び生物確認調査を実施)  
 土量：30 m<sup>3</sup>

### 5 モニタリング計画

調査項目		頻度
底生生物	カニ類等大型底生生物	4季
	マクロベントス	4季
	付着生物	4季
底質	粒度組成、酸化還元電位、強熱減量、含水比、COD、硫化物	4季
水質	水温、塩分、DO、T-N、T-P	4季

### 6 試験でどんなことがわかるのか

- (1) 砂は動かない、塩分濃度が低め、周辺底質がシルト質の状況でどんな高さ、どんな底質がどの生物に適しているのかを探る。

### 7 試験結果を生かした目標イメージ

- (1) 干潟・浅瀬の再生  
 (2) 適正なアクセスの回復



### 試験計画案3 市川塩浜2丁目護岸前面における砂移動試験

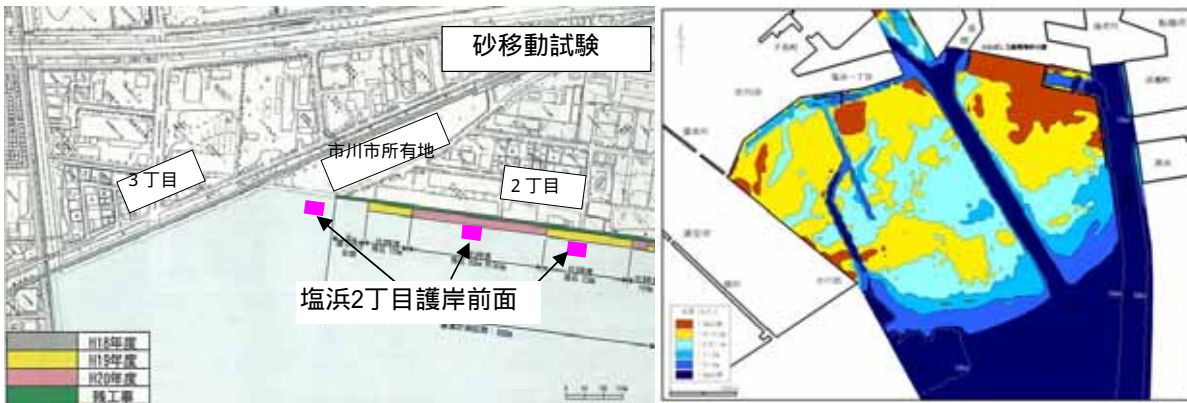
#### 1 試験目的

塩浜2丁目護岸の海域に砂を盛り砂の移動を観察することにより、洲・澗などの干潟の微地形及び干潟形成の検討のための基礎資料を得る。(波、海流の異なる各地点で砂はどの位移動するのか。(範囲、量)、移動する砂にはどのような生物がつくか。)

#### 2 試験項目

- (1)砂の移動状況
- (2)移動する砂につく生物相の確認

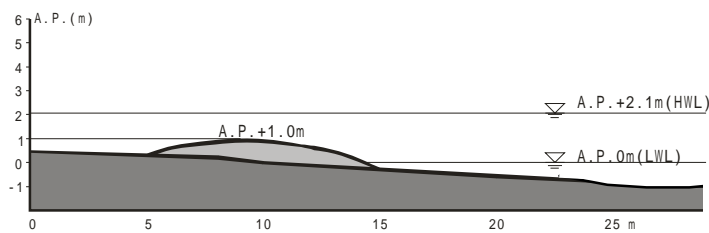
#### 3 試験場所



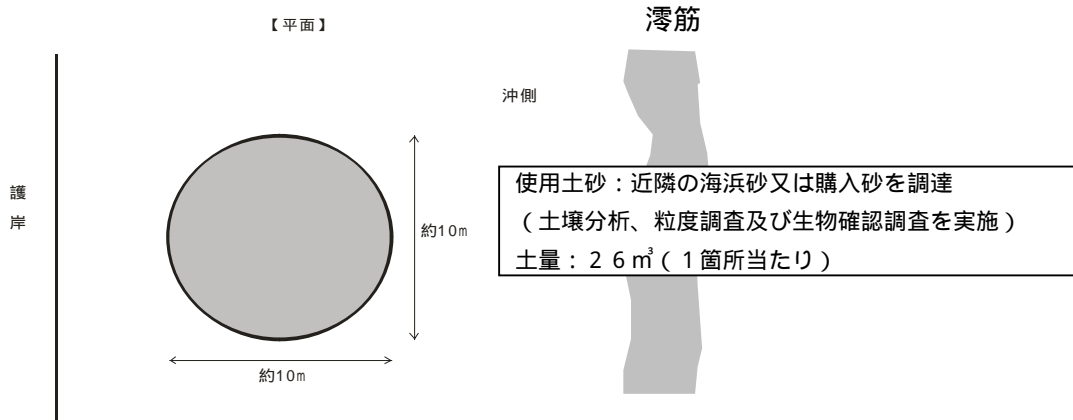
#### 4 試験方法

市川塩浜2丁目護岸前面の海域において、護岸前面に天端高A.P. + 1.0m、直径10mの円状になるようにシルト・粘土分30%の砂を盛り、蛍光砂を用いて移動方向・量を調査する。試験期間は原則2ヶ月とするが、1箇所は試験期間を1年間とする。

【断面】







## 5 モニタリング計画

調査項目	調査方法	調査点数	調査頻度
地盤高	目盛り付き固定杭で測定	1地点	1日後、1週間後、2週間後、4週間後、2ヶ月後
移動方向	蛍光砂を利用して調査	8地点	（ただし、1ヶ所は4ヶ月後、6ヶ月後、1年後も調査）
マクロベントス	採泥器で採取	9地点	2ヶ月後（ただし、1ヶ所は4ヶ月後、6ヶ月後、1年後も）

## 6 試験でどんなことがわかるのか

- (1) 砂が動く。波、海流の異なる各地点で砂はどの位移動するのか。（範囲、量）
- (2) 砂山や移動した砂にはどのような生物がつくか。

## 7 試験結果を生かした目標イメージ

- (1) 干潟・浅瀬の再生
- (2) 洲・澗など干潟の微地形の再生
- (3) 適正なアクセスの回復

